

# 心の原風景 —我が母校—

## 佐渡市立高千小学校

「おはようございます。」  
高千小学校の一日は、39名の子どもたちと先生方との元気なあいさつから始まります。

当校は、明治10年4月に開校しました。昭和60年に高千北小学校、平成元年には外海府小学校と小田小学校を統合しました。そのため、南片辺から岩谷口まで約24キロメートル、18集落を学区としています。

日本海と大佐渡山地に挟まれた高千・外海府地区は、景勝の美を競うと同時に、冬期間の強風による自然の厳しさは生活に支障をきたすほどです。その分、地域の子どもに対する愛情と期待は大きく、高千・外海府地区青少年育成協議会が主催する行事が行われるなど、地域と学校が連携し



校長先生に元気よくあいさつ

て子どもたちの健全育成に努めています。

育成協議会主催の行事としては、小・中学校合同授業参観・教育講演会、漁船乗船体験、石名天然杉見学、意見発表会が行われます。

また、隣の高千中学校と小中連携校としての9年間を見通した取り組みを進めています。海岸清掃、プール清掃、運動会、文化祭等の行事もあります。時には、中学校の先生が小学校の授業を担当することもあります。

学校では、教育目標「たくましい子 かんじとる子 ちえのだせる子」を具現化するために、さまざまな活動に取り組んでいます。花を種から育てる1人1鉢活動、グループによる野菜栽培、全校児童での1泊キャンプなど、1年生から「たかちっ子」としての自覚を育む活動を行っています。少ない人数ですが、明るい笑顔の絶えない学校です。

◆教育委員会学校教育課  
(両津支所内) ☎23-4898



漁船乗船・魚さばき体験



佐渡をジオパークに

## ジオパーク、推進日記

28

### アルキメデスはアルキメデスの化石を見たか？

夏休みを利用して、新幹線に乗って遠くへ出かけた方も多いのではないのでしょうか。新大阪駅―博多駅間を結ぶ500系新幹線の先頭車両の形は、カワセミのくちばしがモデルになっています。より空気抵抗が少ない形を追求した結果、カワセミのくちばしに行きついたそうです。高速でトンネルに突入すると、大きな破裂音が出てしまいます。新幹線の高速化を実現するには、この騒音対策も重要でした。そこで、魚を獲るために、空気抵抗の少ない空中から抵抗の大きい水中に飛び込むカワセミの姿が注目されたのです。スーパーコンピュータで解析された最も理想的な形状は、カワセミのくちばしによく似ていたそうです。

このように、私たちの生活には自然界の形状が多く活用されています。実は、佐渡金銀山で使用されていた水上輪(すいしゅうりん)とそっくりな形の化石があるのです。

水上輪は、1653年に相川金銀山にもたらされた坑内廃水ポンプです。紀元前1世紀頃、ギリシャの哲学者、物理学者のアルキメデスが考案したアルキメデス・ポンプが祖形とされています。木製の細長い円筒の内部に

螺旋状(らせんじょう)の板が取り付けられ、上部についたハンドルを回転させると水がくみ上げられる仕組みです。

このアルキメデス・ポンプの螺旋に非常によく似た形を持つため、アルキメデスと名付けられた化石があります(図1)。これはコケムシという生き物の化石です。コケムシとは、現在も海に生息し、網目のような小さな群体を作って生活する生き物です。形は全く違いますが、佐渡でも、約1600万年前の地層から化石として産出します(図2)。

発明家でもあったアルキメデスは、ネジを発明した人でもあります。彼は、あの螺旋構造をどこで、何を見て思いついたのでしょいか？さて、みなさんはどう考えますか？



図1 アルキメデス化石 (フォッサマグナミュージアム所蔵)

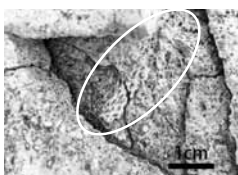


図2 コケムシ (佐渡市)

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室 (両津郷土博物館内)  
☎23-2101